2021年11月

2021年度 四万十町地域イノベーター養成講座 第4回 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部 コミュニティデザイン研究室

実施概要

■日 時:令和3年11月6日(土) 11時00分~17時00分

■会 場:四万十町農村環境改善センター

■主 催:四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室

■実施内容:「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」

「何をして良いのかわからない」そういった方々を対象に全6回の地域イノベーター養成

講座を開催。

一人ひとりが自分事として、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の

学びの場。

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
11:00-12:00	チェックイン	• マイプロに関する共有
12:00-13:30	昼食	
13:30-15:00	キーノートスピーチ	小笠原舞 氏 (asobi基地 代表/合同会社こどもみらい探求社)
15:00-16:50	リーンキャンバス LSPワーク	・レゴ®シリアスプレイ®を活用したワーク
16:50-17:00	チェックアウト	次回までのスケジュール・課題確認

開催概要



スケジュール。内容 ※いずれも13:00-18:00で開講いたします

 $-7/31(\pm)$

コミュニティデザイン研究や

自分の想いと価値観を 掘り起こす

大久保 伸隆 氏 (株式会社ミナデイン代表取締役)

1983年生まれ、千葉県出身、大学卒業後、不動産会社を経て 、2007年エー・ピーカンパニー入社、店長などの競場から事業 部長などを経て、2012年取締役営業本部長に就任、東駐マ ザーズ上場、東
駐一部への市場変更を経験L、2014年に
副 計事就任 アルバイトをやる気にさせる独自の取り組みは「カン プリア変験 | などに紹介される 2018年6月に退計 同年7月に ミナディンを設立し、代表取締役に就任。現在は「烏森百薬」 『詹森絶メシ食堂』(東京・港区新橋)、「里山transit』(千葉 ・佐倉市ユーカリが斤)などを続受 独自の経費エデルは「ガイ アの森明け1に紹介される。飲食店の経覚を通じて、まちづくり のプロデュースに乗り出す。著書に「バイトを大事にする飲食店 は必ず繁盛する」(幻冬舎)

11/6(土

未来の姿を 想像する

小笠原 舞 氏 (arboi基地代表/空間会社こどもみらい原求社)

大学では福祉を学び、社会人経験を経て、保育士となる。 こどもたちから得た学びを広げることが、「Well-being= 雑もがよりよく生きる社会」につながると思い活動中。2012 年 子育てコミュニティasobi基地をつくり、全国に仲間を作 って支部を増やし続けている。2013年には「合同会社こ どもみらい探求社」を設立。2020年には、自主事業「おや こ保育園」をオンライン化し、全国の親子を対象に新しい 子育て支援の形を作っている。

著書:「いい親よりも大切なこと ~こどものために"しなくて ハいこと"こんなにあった〜」プライベートでは、神戸市長 田区の下町情緒と多様性あふれる人々とのつながりの中 で、夫とこども(3歳)・柴犬との暮らしを楽しんでいる。

 $-8/21(\pm)$ -

自分ゴトで取り組める

丑田俊輔氏 (ハバタク株式会社 代表取締役)

公共施設をまちづくり拠点として再生する「ちよだプラット フォームスクウェア」、日本IBMを経て、2010年にハバタク を創業、国内外を舞台に様々な教育事業を展開。 2014年、秋田県五城目町に移住。

田舎発起業家を育む「ドチャペン」、古民家を舞台に地域 を繋ぐ「シェアビレッジ」、遊休施設を遊び場化する「ただ のあそび場」、住民参加型小学校建設「越える学校」支援 等を推進。

2021年、共創型コミュニティブラットフォーム 「Share Village」を公開。

-12/4(±)

小さな一歩を 踏み出してみる

寺井彩氏 (株式会社イグジットフィルム)

大学で女化人類学、紛争解決について学んだ後、英大学 院にて国際関発学修士号取得。 映像を使った社会開発・エンパワメント・啓発手法を学

2017年より、エンターティンメントとしての質の高さと、社 会的な意義の両面を併せ持つ映像を手掛ける制作会社 に入社。広告・ドキュメンタリー・ショートフィルムなど、様々 な映像制作に挽わる。

現在、課題当事者とともに映像をつくる共創型プログラム

誰かの"美しい瞬間"、を発見・とらえるのが好きです。

 $-10/2(\pm)$ 自分と紐づいた

プロジェクトを描



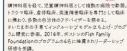
1957年8月15日生まれ。大学卒業後、1982年多気町 入庁。祝務課、教育委員会、総務課、企画課、農林商工課 などを経て、2011年4月「まちの宝創造特命監」に滅任。 高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜 とお弁当の店(株)相可フードネット「せんばいの店」など コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り

これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり貴大貴、 総務大臣優秀貴など多くの貴を受責し、2011年5月から は「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を

1/22(土)

学んだことや 取り組みを発表

小澤 いぶき氏 (NPO法人 PIECES代表)



2017年3月、世界各国のリーダーが集まるザルップルグカン ファレンスに招待、子どものウェルビーイング達成に向けた ザルップルグステイトメント作成に参画。

西村 咲希さん(4期)

私が対域立こし意力限としてやりたいことは何かと悩んでい る際にこの講座を受誦しました。当初は「地域」を軸に考え ていたマノブロジェクトですが、受講するうちに「自分」を柱 にやりたいことを見つけることが出来ました。何かしてみたい けど何をすれば良いか分からない、自分の好きが分からな いという方におすすめの神座です。

窪 博正さん(2期)

1年間イノベーター講座に参加しました。まず、登いた のは参加者のやりたいことの養朴さと面白さ、日の前 のことや夢のようなことまで、警様の考えを前向きに求 ジティブに考えることのできる臭い機会です。毎年する と「施」はもちろん「日からツロコ」但々な落ちがありま した。講師の須藤先生や学生さんからも面白い刺激 を得ることができます。情様の考えを「かたち」にしてく

川口 加代子さん(1期)

光史、たツークラインバランスを取りたいというのが私の長

年のテーマでした。この繊維は自分を振り返ることから始まり

ます。それも直近ではなく、生い立ちずべて!そのプロセスは

小さな一歩を踏み出すための自分との対話。頭を整理し、

言葉を結ぎ、人に伝えて認めてもらう。これってすごいこと。そ

井口 佐奈恵さん(3期)

今、「四万十旬で生活できて良かった」と、心から思えるのは、この講座に 参加したおかげです。7年前、号の介護のためにこちらに来た頃の気持ち とは、大きく違っています。

午鈴も立場も違う人たらどの出会い。安心・安全が保障された場で、本 音を記り合う心地よる。全国各地で活躍されている方からの講話等、魁 力がいっぱいの講座です。

岩垂 桂也さん(1期)

人として成長を感じたい人には特におすすめです「私自身、自分の強いを 形にする中で、自分のモヤモヤが鳴れていくだけではなく、自分の憩いを 形にするには圧囲の人たちの協力や存在が大きなものだと感じる。た。自 分1人ではできないこともみんながいることでできることがある。そう省える と参加しない選択肢はないですね!



講座

自分のこれまでの人生を振り返り ながら、疑問や、やりたいこと、関心 など本当の自分を語り合います。

実践 チャレンジ

自分と紐付いたプロジェクトを、調 べたり、話を聞くなど、できること から小さくアクションしていきます

オンラインメンタリング

アクションを通して感じたことなど を仲間や学生メンターと対話 しながら、振り返ります。

最終報告

講座のたびにくりかえし実施して進めていきます

- ●募集人員 10名程度を予定
- ●受講料 ① 町内に住所がある方… 5,000円② 町外に住所がある方… 10,000円
- ●講師 高知大学 地域協働学部 須藤 順 先生
- ●応募書類 右下のQRコードの応募フォームからご応募していただくか、エントリーシートに必要事項を記入して、下記 四万十町役場人材育成推進センター のいずれかの方法でご応募ください。
- ① 持参する場合は、人材育成推進センター、もしくは各地域振興局に7月26 日(月)までに提出してください。
- (2) 郵送、メール、もしくはFAXで人材育成推進センターまでお送りください。 なお、エントリーシートは、四万十町ホー ムページからもダウンロードできます。
- ●受講資格 四万十町で活動する意思のある方、並びに、四万十町の資源を活用して活動する意思のある方で、 原則として、全講座に参加できる方を対象としています。
- ●受講料納付方法 受講料は、第1回目の講座の時にご持参ください。
- ●その他 講座内容や開催場所(四万十町内)等の詳細については、受講生のみに通知いたします。

(注意) 各回の間に、具体的なアクション(調査など)を行っていただくことに加え、

事務局および運営チームとの相談会を適宜開催し、ブロジェクトの実現に 向けたサポートを行います

(担当:横山 光一・吉村 愛)

〒786-8501

高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号 E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp TEL 0880 - 22 - 3163 FAX 0880 - 22 - 3345

令和3年度 地域イノベーター養成講座エントリーシート					
氏名			フリガナ		
職業		電話		メールアドレス	
年齢	性別		住所		
あなたが現時点で思い描いているプロジェクトや、四万 町でやってみたいことがあればご記入ください。					

四万十町役場

高知大学 地域協働学部 コミュニティデザイン研究室 (須藤順)

学生サポート

高知大学大学院修士課程2年生 岡本廉

学生メンター

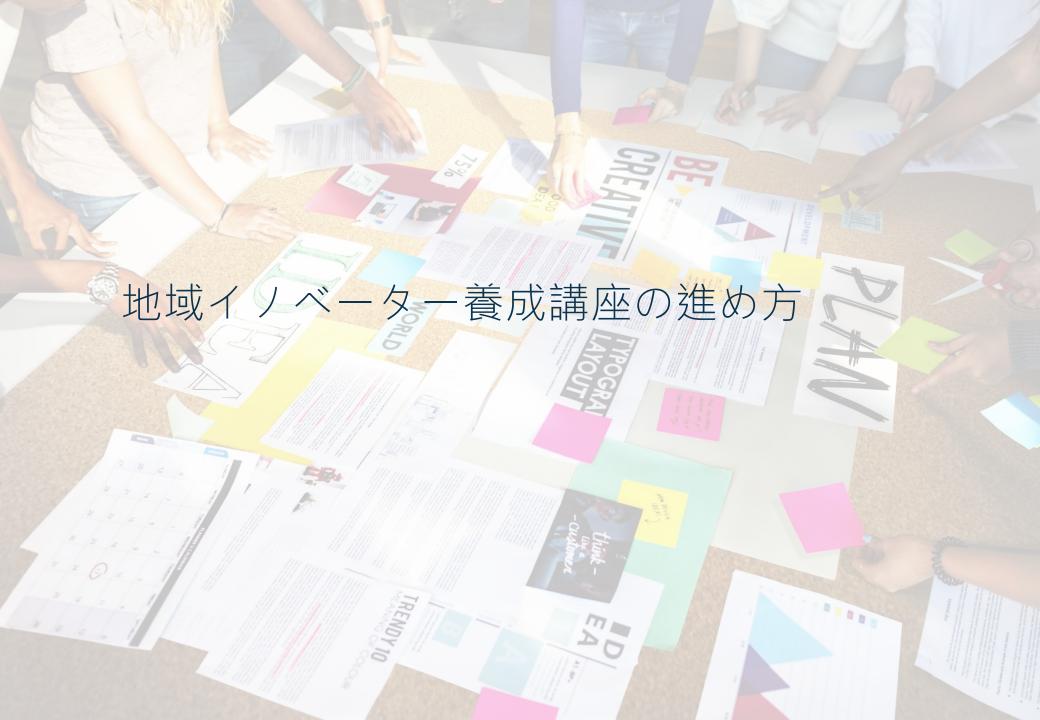
高知大学地域協働学部4年生 檜山諒高知大学地域協働学部4年生 春田碧高知大学地域協働学部3年生 川村洸士郎高知大学地域協働学部3年生 窪田良雅高知大学地域協働学部3年生 柳原伊吹高知大学地域協働学部2年生 西上一成高知大学地域協働学部1年生 佐々木暖花高知大学地域協働学部1年生 杉田珠夢

1人ひとりが自分事として、 地域課題解決や活性化を目指す 「チャレンジする人材」の学びの場

一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション(使命)を見つけ出す

2 "ジブンゴト"で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す

ジブンゴトのプロジェクト(マイプロジェクト)に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る





本当の自分を語り合う

自分のこれまでの人生を振り返りながら、好きなものや関心があること、疑問に思ってること、 やってみたいことを語り合う。

アクションしてみる

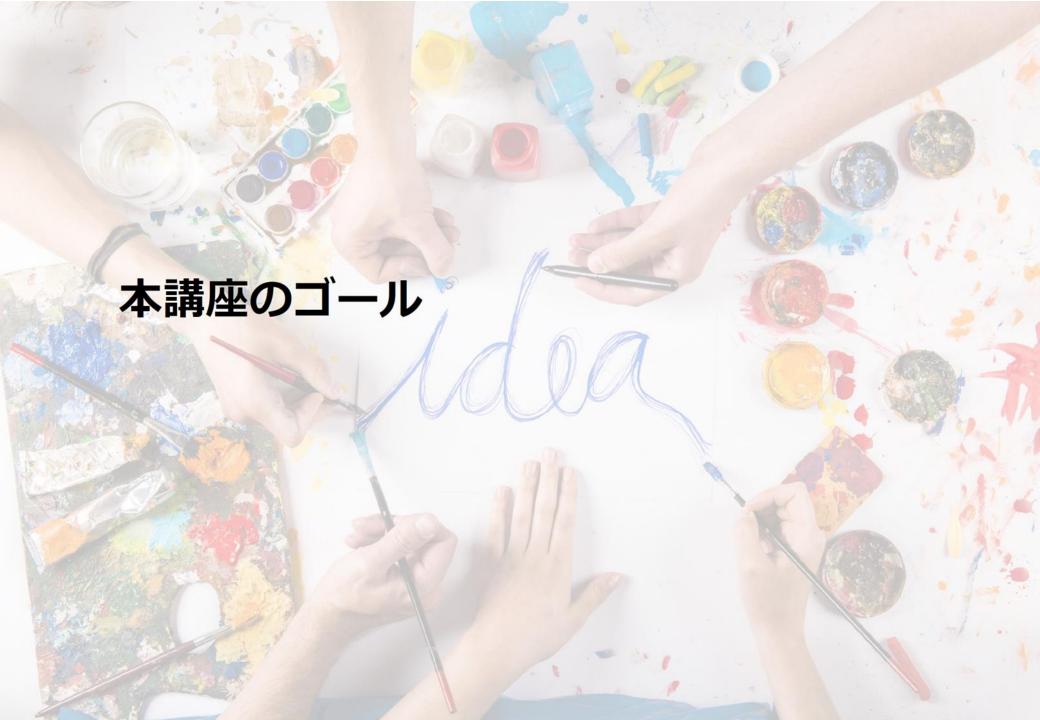
自分と紐づいたプロジェクトを 小さくやってみる。先輩を訪ね たり、調べてみたり、誰かに話 してみたり、自分ができること に取り組んでみる。

振り返る

アクションしてみて気づいたこと、感じたこと、思ったことを 仲間やメンターと対話をしなが ら振り返り、自分の本当の気持 ちに向き合う。

2つのシートを使って対話とアクションを繰り返していきます!





自分が情熱を傾けられるモノ・コトを自分の経験 の中から見つけ出す

「アクションしながら学びを得る」ことを意識し、 徹底して、行動と対話を繰り返す

自分らしいと思えるプロジェクトを描き、自然体 で向き合える仲間づくりを行う

Growth 場のルール Business Success Marketing

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

自分に基づいた(My) 「何かを、プロジェクトの形にして(pjt)やってみる」 ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

> 自らの経験の中から、 自分のミッションを生み出していく



チェックイン

今回のチェックインでは、それぞれプロジェクトの進捗に関しての共有を普段より丁寧に行った。プロジェクトの概要や、「そのプロジェクトをあなたがやる理由は?」という問いに対して一人ひとりが話した。その後、受講生と学生メンター同士でペアをつくりお互いのプロジェクトを共有し、アドバイスし合う時間を設けた。会話の中で自分自身の考えが整理され、話が進行していく様子が見受けられた。



キーノートスピーチ

キーノートスピーチでは、小笠原舞氏より「未来の姿を想像する」についての講義が行われた。

小笠原舞(asobi基地 代表/合同会社こどもみらい探求社)

大学では福祉を学び、社会人経験を経て、保育士となる。こどもたちから得た学びを広げることが、「Well―being=誰もがよりよく生きる社会」につながると思い活動中。2012年子育てコミュニティ asobi基地をつくり、全国に仲間を作って支部を増やし続けている。2013年には「合同会社こどもみらい探求社」を設立。2020年には、自主事業「おやこ保育園」をオンライン化し、全国の親子を対象に新しい子育て支援の形を作っている。

著書:「いい親よりも大切なこと〜こどものために"しなくていいこと"こんなにあった〜」プライベートでは、神戸市長田区の下町情緒と多様性あふれる人々とのつながりの中で、夫とこども(3歳)・柴犬との暮らしを楽しんでいる。

◆他の家族とつながる空間

保育士資格も持つ小笠原氏は、現場に様々な課題が蓄積していることを実感し、子どもにとって本当にいい社会とは?という問いを持つ。そこで、たくさんの子どもを知りたいと考え、家族だけではないつながりを作ることを目的として、親御さんがゆるく楽しみながら活動できる「asobi基地」を始めた。「asobi基地」では、家族単位ではなく、家族同士をつなげることを意識してスタッフは対応しており、心を許せる空間をつくっている。コロナ禍で一時中断した場所もあったものの、現在も継続的なコミュニティとして、各地で開催されている。

◆生きることを親子で楽しみ、育ち合う保育園

孤立した子育てや産後うつといった課題に対して、保育園以外でなにか出来ないかと考えた小笠原氏は、保護者が保育士と一緒に子どもを見ながら子育てスキルを学べる「おやこ保育園」も実施。子育てに関するレクチャーやお悩み相談などの活動をしている。「おやこ保育園」はオンラインでも開催され、海外や地方からの参加もあり、他家族とのつながりの範囲は想像をはるかに超えて拡大した。子どもも大人も大事にすることを大切にしており、この場では、母親も頑張らなくていい、息抜きが出来る場にすることで、結果として夫婦で話す時間が増え、子どもにとっても良い影響があるという。

◆1家族で子どもを育てられる世の中ではない

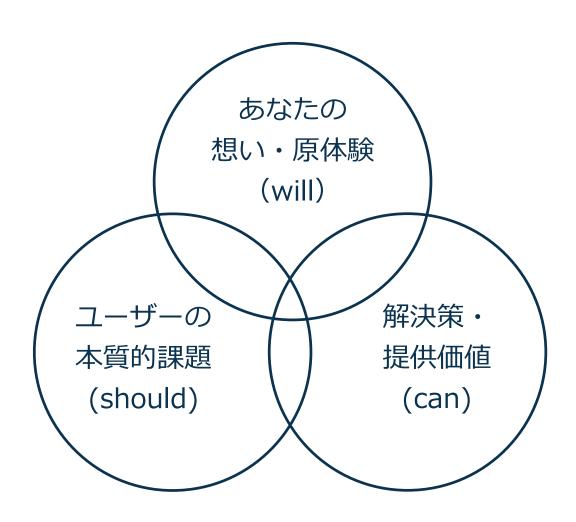
子育では1家族でするものではないという考えを持っている小笠原氏は、様々な人と関わり合いながら作る社会が出来上がっている神戸市長田区に惹かれた。地域の人とつながる社会を作りたいという想いから、自分の家を開放し、拡大家族をつくることに踏み出した。暮らしの中で人の集まる空間を活動の一貫としてではなく、暮らしの一貫として創造することを狙いとしている。多くの人とつながる社会の中で、違いに触れるということが、子どもが今後タフに生きることができる要素だと考えている。



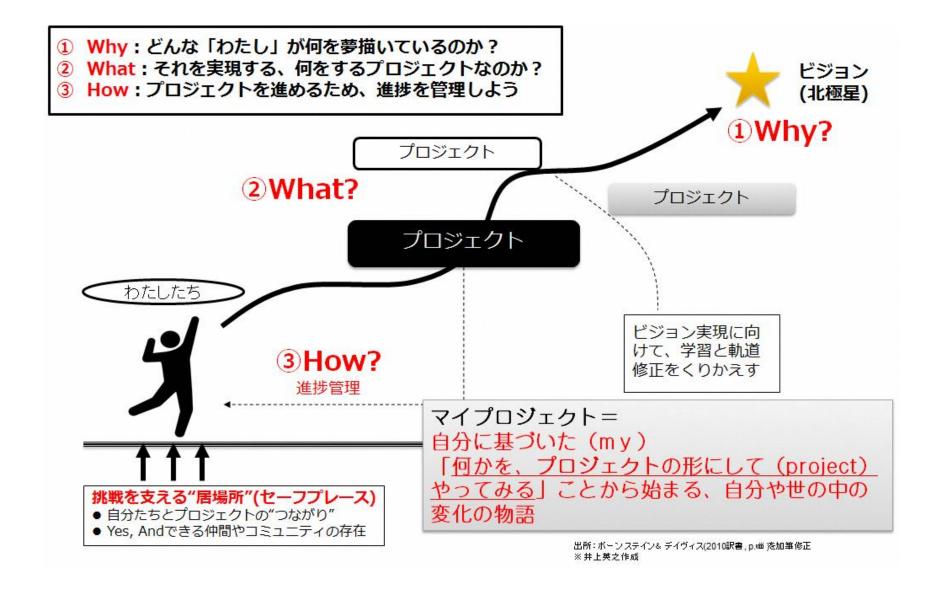
リーンキャンバス・LSPワーク

リーンキャンバスについての説明を高知大学の須藤が行った後、各プロジェクトのリーンキャンバスをそれぞれがレゴを利用し表現した。リーンキャンバスの7つの要素の中でも、課題、顧客セグメント(顧客の分類)、提供価値の3つをレゴを用いて作成した。受講生は自分のプロジェクトと向き合いながら作品の制作に熱中しており、質問も積極的に行っていた。





ポイント:プロジェクトを通じて自分の行先を見つける



問い合わせ先

四万十町役場 人材育成推進センター 担当:横山 光一・吉村 愛 〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号 TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123 E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当:准教授 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail j.suto@kochi-u.ac.jp

Web http://www.communitydesign-kochi.jp/

- ※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。
- ※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させて頂きます。

Copyright © 2020 Jun SUTO All Rights Reserved.